

フォーラム「地方自治体の DX 支援に向けてアイデアを出し合おう！」
ーデータ活用した価値提供型ビジネスに向けた取り組みに向けてー 開催報告

令和4年10月26日(水)、JISA 企画・広報委員会(委員長:尾本昇 伊藤忠テクノソリューションズ(株) 常務執行役員 情報システムグループ担当役員 兼 CIO)が社会課題解決のために会員各社が持てる技術・アイデアを連携する共創プロジェクト「JISA 版はやぶさプロジェクト」の一環として、株式会社ガバメイツから別府幹雄氏(株式会社ガバメイツ 代表取締役)、疋田智弘氏(株式会社ガバメイツ 事業企画本部パートナーアライアンス部長)、自治体出身者をお迎えし、フォーラム「[地方自治体の DX 支援に向けてアイデアを出し合おう!](#)」をハイブリッド(対面とオンラインの両方)で開催した。

このフォーラムは、少子化、高齢化等社会課題を抱えている地方自治体の DX を支援するためのアイデアの創出に向けた事例紹介及び地方自治体の問題点を理解し、JISA 会員企業各社で社会課題解決に向けたアイデアを出し合うグループ討議(ワークショップ)を行うイベントとして開催された。参加者は関係者を含め 30 名。

はじめに、尾本委員長よりははやぶさプロジェクトの概要及び本イベントについて「地方自治体の課題、住民も含めてニュースが毎日のように流れているか、個別最適ではなく、全体を俯瞰して、IT 企業として何ができるのかを考える必要があるのではないかと考え今回イベントを企画した。」と開会挨拶があった。

次に、基調講演として別府幹雄氏より「ガバメイツのパートナー戦略 ～地域 SIer は『地元』に寄り添って!」についてご講演をいただき、コロナ渦での経験から浮き彫りとなった自治体の現状と課題解決に向けた取り組み及び事例の紹介があった。

続けて、疋田智弘氏より、「自治体 DX 支援プラットフォームのご紹介」について講演があった。同プラットフォームは、自治体業務を改善・効率化し職員の働き方を豊かにするために、約 200 の自治体データを管理している。



最後に、参加者が5つのグループに分かれ、ワークショップを実施した。テーマは「ITベンダーの課題と方向性について」で、2025年の基幹20業務の標準化（ガバメントクラウド）後を見据えた地域ITベンダーのあり方について各グループでアイデアを発表し、講演者からフィードバックが行われた。

なお、今回の詳細な報告は2023年1月発行のJISA会報で掲載予定である。

（企画・広報委員会事務局）

